

やっぱり「交番検査周期延伸」に**向けたアリバイづくりか?!****「周期延伸を目的とした試験走行」に関して労使協議が開催されました!!**

現在、「交検の検査周期を現行の3万キロから倍の6万キロにする」ことを目的とした「9万キロの試験走行」が昨年11月から行われています。私たちは所属する労働組合を通じてこの件について関西支社に申し入れをしていましたが、年末の12月24日に労使協議が開かれました。

その中で会社回答の要旨は

- ◎適切な検査周期を設定するために「試験走行」を行う、周期延伸の時期についてはテストカー走行の結果を見て検討していく。
- ◎試験走行の準備を進めてきた「外部の有識者を含めた検討委員会」とは大学の教授や鉄道総研のメンバーも含めた十数名、国交省の人とかは入っておらず社内で検討するもの。
- ◎「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」（実施基準第三条の4）にあるように「・・・機能が確保される車両の部品にあつては鉄道事業者が証明することにより検査周期などを定めることができる」となっている。
- ◎9万キロ走りましたというテストカーの結果と、過去の検修実績を総合的に判断して最終的にどうするかを決める。

などといった内容です。

しかし、以前にもお伝えしたように「試験走行」では私たちが現場で作業していればおおよそ予想のつく「消耗品の摩耗量のデータ取り」に軸足を置いて、グランドスイッチの「端子の焦げ」など重大な故障につながる恐れのある「電気機器」等の検証は行っていません。これってやっぱり「検査周期延伸ありき」のアリバイづくりの「試験走行」ではないでしょうか?! 会社は12月29日に「技術連絡」を出してN700系編成のグランドスイッチの一部交換をすることでありますが、「不安のタネ」を取り除けば6万キロ走っても大丈夫だとも言うのでしょうか?! 「リニア建設に向けたコスト削減」で安全がないがしろにされてはなりません!

社員の皆さん! この労使協議の詳細な内容は「組合掲示板」に貼っています。「組合掲示板」は庁舎2階通路の人目につきにくい場所に設置されていますが、ぜひ足を運んで読んでみて下さい!!